

平成 21 年度事業報告書

1. 平成 21 年度事業の概要

事業名	金額	備考
研究助成 (寄附行為第 4 条 - 1)	49,994,750 円	@ 100 万円 × 50 件 (受領者の送金手数料負担分を除く) 20 年度より継続 20 件 21 年度新規 30 件
海外派遣・外国人学者招聘助成 (寄附行為第 4 条 - 2)	1,500,000 円	海外派遣助成中止 外国人学者招聘助成 @ 50 万円 × 3 件
研究会・シンポジウム開催及び開催助成 (寄附行為第 4 条 - 3)	4,000,000 円	研究会・シンポジウム開催中止 シンポジウム開催助成 @ 50 万円 × 8 件
三共“フェローシップ”奨学研究助成 (寄附行為第 4 条 - 4)	21,000,000 円	@ 300 万円 × 7 件 20 年度継続 4 件 21 年度新規 3 件
研究業績褒賞 (寄附行為第 4 条 - 5)	10,000,000 円	第 7 回高峰記念三共賞副賞
事業推進費 (寄附行為第 4 条 - 6)	10,471,325 円	助成事業に係わる費用の支出
	7,124,331 円	研究業績褒賞事業
	17,595,656 円	小 計
合 計	104,090,406 円	

2. 助成事業

平成 20 年 12 月 10 日開催の理事会・評議員会で決定した事業計画に基づいて、以下の助成事業を実施した。

(1) 研究助成（寄附行為第 4 条 - 1）

- a. 募集期間：平成 21 年 4 月 1 日～5 月 31 日
- b. 選考過程：120 名応募について、各選考委員が書面審査の上、10 月 21 日に選考委員会を開催して選考を行った。
- c. 決定：この選考結果を 11 月 27 日開催の理事会で審議して、交付対象者 30 名を決定し、直ちに応募者に合否を通知した。採択者に対する助成金の支払いは、平成 22 年 1 月よ

り実施した。

d. 採択者：別添資料－1に掲載

(2) 海外派遣助成及び外国人学者招聘助成（寄附行為第4条－2）

a. 募集期間：平成21年1月15日～2月28日

b. 選考過程：5名応募について各選考委員が書面審査の上、4月22日に選考委員会を開催して選考を行った。

c. 決定：この選考結果を5月29日開催の理事会で検討して、交付対象者3名を決定し、直ちに応募者に合否を通知した。採択者に対する助成金の支払いは、平成21年6月より実施した。

d. 採択者：別添資料－2に掲載

e. その他：本年度は、海外派遣助成は中止した。

(3) 研究会・シンポジウム開催及び開催助成（寄附行為第4条－3）

a. 募集期間：平成21年1月15日～2月28日

b. 選考過程：13名申請について各選考委員が書面審査の上、4月22日に選考委員会を開催して選考を行った。

c. 決定：この選考結果を5月29日開催の理事会で検討して、交付対象者8名を決定し、直ちに応募者に合否を通知した。採択者に対する助成金の支払いは、平成21年6月より実施した。

d. 採択者：別添資料－3に掲載

e. その他：本年度は、研究会・シンポジウム開催（高峰カンファレンス）は中止した。

(4) 三共“フェローシップ”奨学研究助成（寄附行為第4条－4）

a. 募集期間：平成21年4月1日～5月31日

b. 選考過程：15名応募について各選考委員が書面審査の上、10月21日に選考委員会を開催して、内定者の選考を行った。その後、11月16日に内定者に対し、面接試験を実施した。

c. 決定：この選考結果を11月27日開催の理事会で検討して、交付対象者5名及び補欠1名を決定し、直ちに応募者に合否を通知した。その後、2名の辞退があり、採択者は4名となった。採択者に対する助成金の支払いは、平成22年4月より開始する。

d. 採択者：別添資料－4に掲載

なお、(1)及び(4)の事業については、全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長、並びに当法人の理事、評議員及び当法人の褒賞受賞者に対して推薦を依頼した。(2)及び(3)の事業については、当法人の理事、評議員及び当法人の褒賞受賞者に対して推薦を依頼した。

各種助成の実績

科 目	応募件数	採択件数	採択率
研究助成	120	30	25.0%
海外派遣助成 ^{*1} 及び外国人学者招聘助成	5	3	60.0%
研究会・シンポジウム開催 ^{*1} 及び開催助成	13	8	61.5%
三共“フェローシップ”奨学研究助成	15	5 ^{*2}	33.3%
合 計	153	46	30.0%

*1 海外派遣助成及び研究会・シンポジウム開催は今年度は中止。

*2 辞退者があり、交付対象者は4名。

3. 研究業績褒賞事業（第7回高峰記念三共賞）（寄附行為第4条－5）

高峰記念三共賞は、当法人の理事、評議員、選考委員並びに過去の褒賞受賞者に候補者の推薦を依頼し、以下のとおり実施した。

- (1) 推薦期間：平成21年1月15日～2月28日
- (2) 選考過程：5名の推薦書に基づき、各選考委員が書面審査及び4月22日開催の第一次選考会において、第一次候補者の選考を行った。事務局にて当該候補者に対して応募の意思の確認をした上で、応募申請の提出を依頼した。5名の応募者の応募書類及び選考委員会での選考結果をもとに、9月16日開催の高峰記念三共賞審査委員会において、最終候補者を選定した。
- (3) 決定：この審査結果を11月27日開催の理事会で検討の上、褒賞対象者を決定し、直ちに応募者に可否を通知した。
- (4) 贈呈式：高峰記念三共賞贈呈式は、平成22年2月17日に東京會館にて開催され、受賞者には、第7回高峰記念三共賞（賞状と記念メダル）および副賞（1,000万円）を贈呈した。又、受賞者による記念講演が行われた。尚、出席者は45名であった。
- (5) 受賞者及び受賞研究テーマ
 - a. 受賞者：杉山雄一博士（東京大学大学院薬学系研究科教授）
 - b. 受賞研究テーマ：「薬物体内動態における薬物トランスポーターの役割解明－薬物動態の定量的予測を創薬に活かす－」

研究業績褒賞の実績

科 目	応募件数	採択件数
第7回高峰記念三共賞	5件	1件

4. 刊行物の発行

平成19年度の研究助成及び同三共“フェローシップ”奨学研究助成受領者より提出された成

果論文をとりまとめ、「三共生命科学研究振興財団研究報告集 vol.25」を刊行し、全国 251 箇所の生命科学分野の大学及び研究機関の図書館等へ交付した。

5. 次年度各種事業の準備

(1) 平成 22 年度事業計画の立案

平成 22 年度事業計画立案に当たり、助成事業の見直しを行い、以下の通りとした。平成 22 年度の各応募要領については、平成 21 年 11 月 25 日に開催された評議員会、11 月 27 日に開催された理事会において認証を受けた。平成 22 年度事業計画については、平成 22 年 2 月 17 日に開催された理事会、評議員会において承認された。

助成事業	1. 研究助成（寄附行為第 4 条－1）
	2. 海外共同研究支援助成（寄附行為第 4 条－2）*
	3. シンポジウム開催助成（寄附行為第 4 条－3）
	4. 三共“フェローシップ”奨学研究助成（寄附行為第 4 条－4）
褒賞事業	5. 研究業績褒賞事業（寄附行為第 4 条－5）
	6. 褒賞受賞テーマに関連するシンポジウム開催（寄附行為第 4 条－3）

* 従来、海外派遣助成及び外国人学者招聘助成を実施してきたが、より効果的な助成を行うため、助成対象を海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成することとした。

(2) 応募方法の変更

- a. 平成 22 年度研究助成、海外共同研究支援助成及び平成 23 年度三共“フェローシップ”奨学研究助成の応募方法について、当法人の理事・評議員・名誉理事、研究業績褒賞受賞者に加えて、平成 22 年度より理事会において選定した全国 384 箇所の生命科学分野の大学大学院研究科長並びに研究機関長を推薦者とし、応募者の第一次選考を依頼することにした。そのため、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦用紙を送付した。
- b. 平成 22 年度より、シンポジウム開催助成は、推薦制度を廃止した。

(3) 研究業績褒賞推薦者の変更

従来、当法人の理事・評議員・選考委員・名誉理事、研究業績褒賞受賞者を推薦者としていたが、理事会において選定した全国 384 箇所の生命科学分野の大学大学院研究科長並びに研究機関長を加え、当該推薦者に推薦要領及び所定の推薦用紙を送付した。尚、当法人の同褒賞審査委員は、当該推薦者から除外した。

(4) 応募事務の効率化

応募者の増大に対応するため、申請書類の一部に WEB 申請の導入準備を行った。（研究助成及び三共“フェローシップ”奨学研究助成の応募について、平成 22 年 4 月 1 日より運用開始）。

別添資料

[別添資料 - 1]

第 27 回（平成 21 年度）研究助成採択者 30 件（交付金：1 件 100 万円 / 年間, 2 年間）

(50 音順、敬称略)

申請者	大学・所属・職名	共同研究者		研究課題
		所属機関		
足立 弘 明	名古屋大学大学院医学系研究科神経内科・特任講師			ポリグルタミン病モデルにおける immunophilin 高発現の効果
伊 村 明 浩	京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座・助教	京都大学大学院医学研究科 研究員 高塚 賢 二		α Klotho 発現組織に着目した新規ミネラル関連分子群の総合的解析
岡 澤 均	国立大学法人 東京医科歯科大学 難治疾患研究所神経病理学分野・教授	東京医科歯科大学 准教授 榎 戸 靖 彦 特任助教 小 室 晃 彦		DNA 修復タンパクの神経細胞導入による神経変性疾患治療
荻 朋 男	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・助教	長崎大学医学部 教授 山 下 俊 一 他 サセックス大学 GDSC 教授 Alan Lehmann 他 東京医科歯科大学 助教 竹 中 克 也		放射線 DNA 損傷の新たな修復メカニズムの解明と放射線誘発がん予防のためのリスク評価
片 桐 豊 雅	徳島大学 疾患ゲノム研究センター ゲノム制御分野・教授			新規分裂期キナーゼによる乳がん細胞分裂期制御機構の解明
片 山 勉	九州大学大学院薬学研究院・教授	九州大学大学院薬学研究院 助教 毛谷村 賢 司 吾 助教 尾 崎 省 吾		新規 DNA 複製開始因子 DiaA を標的とした狭域スペクトル抗菌剤創薬基礎研究
北 村 忠 弘	群馬大学 生体調節研究所・教授	群馬大学生体調節研究所 助教 小 林 雅 樹		2 型糖尿病における膵 α 細胞障害の分子メカニズムの解明～新しい作用機序の糖尿病治療薬の開発を目指して～
熊 谷 直 哉	東京大学大学院薬学系研究科・助教			触媒的不斉 4 置換炭素構築反応を駆使する C 型肝炎ウイルス (HCV) 増殖抑制剤群の短工程合成
幸 谷 愛	東京大学医科学研究所先端医療研究センター分子療法分野 / 血液腫瘍内科・助教	京都大学 教授 本 庶 佑 東京大学 教授 東 條 有 伸		慢性骨髄性白血病における腫瘍進化、薬剤耐性に対する新奇治療を目指した基礎的研究
小早川 令 子	(財) 大阪バイオサイエンス研究所・室長			社会コミュニケーション反応を特異的に制御する神経メカニズムの解明
坂 根 郁 夫	千葉大学大学院理学研究科生体機能化学研究室・教授	札幌医科大学 助教 甲 斐 正 広 智 助教 安 田 智		インスリン受容体情報伝達のジアシルグリセロールキナーゼによる制御の分子機構
清 野 研 一 郎	聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター・准教授	聖マリアンナ医科大学 助教 和 田 はるか		新しい再生医療へ向けた新規細胞の作製 - ガンモデルタ APC に関する研究 -
竹 内 純	東京工業大学グローバルエッジ研究院・助教	東京工業大学グローバルエッジ研究院 特別研究員 小 柴 和 子		islet1 陽性心臓前駆 (幹) 細胞を制御する上流因子の単離と細胞株の樹立

申請者	大学・所属・職名	共同研究者	研究課題
		所属機関	
竹島 浩	京都大学大学院薬学研究科・教授	京都大学大学院薬学研究科 助教 山本 伸一郎 他 同大学医学部附属病院 助教 赤尾 昌治	TRIC チャンネルと不整脈
立石 敬介	東京大学医学部附属病院・消化器内科・助教		エネルギー代謝調節システムとしてのヒストンコード制御系の分子基盤解明
田中 知明	千葉大学附属病院 細胞治療学・助教	千葉大学大学院 教授 岩間 厚志 准教授 瀧野 一郎	がん幹細胞・iPS 細胞制御における新規創薬基盤創出を目指したクロマチン制御機構の解明
田ノ上 拓自	神戸大学大学院医学研究科・特命助教		極性上皮様細胞の形状変化におけるアクチン骨格系制御機構の解析
田村 宏治	東北大学大学院生命科学研究所・教授		器官形態再生幹細胞の未分化性を創出するエピジェネティック遺伝子制御
直江 吉則	国立長寿医療センター研究所 老化機構研究部免疫研究室・室長		加齢に伴う免疫低下メカニズムの解明
中岡 良和	大阪大学大学院医学系研究科 循環器内科学・特任助教	大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 招聘教授 小室 一成	Angiotensin-1/Tie2 シグナル経路による心臓組織保護の分子機構
中島 欽一	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科・教授		胎生期 HDAC 阻害剤暴露による成体マウス行動解析と行動異常原因解明
西村 智	東京大学医学系研究科循環器内科・システム疾患生命科学による先端医療技術開発拠点・特任助教	東京大学大学院医学系研究科 特任教授 真鍋 一郎 東京大学医科学研究所 特任教授 江藤 浩之	生体内分子細胞イメージングによる慢性炎症を背景とした生活習慣病の病態解明
沼田 倫征	独立行政法人産業技術総合研究所 生物機能工学研究部門・研究員		tRNA のアンチコンドン修飾メカニズムの分子基盤解明
廣田 俊	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科・教授	奈良先端科学技術大学院大学 助教 長尾 聡	タンパク質における初期凝集体生成メカニズムの解明
堀家 慎一	金沢大学フロンティアサイエンス機構・特任助教	カルフォルニア大学デービス校 教授 Janine M.LaSalle	発達障害スペクトラムの原因遺伝子機能からとらえる発症機序の多角的解析
松沢 厚	東京大学大学院薬学系研究科 細胞情報学教室・准教授		生理的メディエーターとしての活性酸素シグナルの受容-応答分子機構の解明
南川 典昭	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・教授		ケミカルアプローチによる RNA 干渉発現の分子認識機構の解明
吉田 清嗣	東京医科歯科大学難治疾患研究所・准教授		がん抑制遺伝子 P53 による転写制御とアポトーシス誘導機構
吉田 裕樹	佐賀大学医学部感染免疫学・教授	佐賀大学医学部 准教授 原 博満	原虫感染に対する CARD9 を介した新規自然免疫活性化経路の解析

申請者	大学・所属・職名	共同研究者	研究課題
		所属機関	
脇 裕 典	東京大学大学院医学系研究科 分子エネルギー代謝学、糖尿 病・代謝内科・特任助教	東京大学先端科学技術研究センター 教授 油 谷 浩 幸 特任教授 酒 井 寿 郎	エピジェネティクスによる脂肪細胞分化制御因子 PPAR γ 発現制御機構の研究

[別添資料 - 2]

平成 21 年度外国人学者招聘助成 3 件 (交付金: 1 件 50 万円)

(50 音順、敬称略)

受入責任者	招聘外国人学者	A: 研究課題 B: 招聘目的 C: 招聘期間
	所属機関 / 役職	
東京大学医学部附属病院 教授 乾 賢 一	Matthias A. Hediger, Ph.D. Institute of Biochemistry & Molecular Medicine, University of Berne 教授 (スイス)	A: 膜輸送体の生理機構解明と創薬・薬物治療への応用 B: 1) 京都大学医学部附属病院セミナー「トランスポート科学の臨床応用」。 2) 日本薬物動態学会第 24 回年会では特別講師として招聘。特別講演「膜輸送体の生理機構解明と創薬・薬物治療への応用」 3) 京大大学院薬学研究所院生、医学研究科院生との打合せ (研究発表)。 4) アジアパシフィック地域との合同シンポジウムに出席、討議参加。 C: 平成 21 年 11 月 25 日～平成 21 年 11 月 30 日 (6 日間)
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所 教授 箕 越 靖 彦	Tamas L. Horvath, D.V.M. Ph. D. Dep. of Neurobiology and Dep. of Ob/Gyn & Reproductive Sciences, Yale University School of Medicine, Professor(USA)	A: 「脳、特に視床下部における摂食、エネルギー代謝調節機構の解明」視床下部における新規エネルギー感受機構を分子レベルで解明すると共に、この調節機構が摂食行動にどのような調節作用を営み、肥満とどう関わっているかを明らかにする。 B: 1) 第 32 回日本神経科学大会 企画シンポジウムにおいて発表 講演 C: 平成 21 年 9 月 15 日～平成 21 年 9 月 19 日 (5 日間)
東京大学大学院医学系研究科 教授 宮 下 保 司	Fernando Nottebohm, Ph.D. The Rockefeller University Dorothea L. Leonhardt Professor (USA)	A: 成鳥の脳におけるニューロン新生と歌学習のメカニズム B: 1) 慶應義塾大学および東京大学訪問 2) 第 36 回「国際生理学会世界大会 (IUPS2009)」特別講師として講演 C: 平成 21 年 7 月 27 日～平成 21 年 8 月 2 日 (7 日間)

平成21年度研究会・シンポジウム開催助成 8件 (交付金: 1件50万円)

(50音順、敬称略)

会合名、開催日、場所	申請書	参加人数	摘要
	所属機関・職名		
<ul style="list-style-type: none"> ・PAT-CVR 国際合同シンポジウム：アニオン輸送と細胞内容積調節 ・平成21年8月3日～6日(4日間) ・大学共同利用機関法人自然科学研究機構 岡崎コンファレンスセンター 	大学共同利用期間法人 自然科学研究機構 生理学研究所 所長 岡田 奏 伸	国内 170名 国外 60名 合計 230名	主催：大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所
<ul style="list-style-type: none"> ・第17回マイクロカプセルに関する国際シンポジウム ・平成21年9月29日～10月1日(3日間) ・名古屋国際会議場 	愛知学院大学薬学部 臨床薬学科・製剤学講座 教授 川島 嘉 明	国内 230名 国外 100名 合計 330名	主催：第17回マイクロカプセルに関する国際シンポジウム組織委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞シグナリングに関する第6回日韓若手交流セミナー ・平成21年11月24日～26日(3日間) ・ハウステンボスおよび長崎国際大学薬学部 	九州大学大学院歯科研究院 教授 平田 雅 人	国内 55名 国外 46名 合計 101名	主催：細胞シグナリングに関する第6回日韓若手交流セミナー組織委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・第11回外分泌線機能国際シンポジウム、徳島09外分泌－メカニズムと病気 ・平成21年7月23日～25日(3日間) ・徳島大学蔵本キャンパス 	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 口腔分子生理学分野 教授 細井 和 雄	国内 65名 国外 45名 合計 110名	主催：徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔分子生理学分野
<ul style="list-style-type: none"> ・第9回国際炎症学会議 ・平成21年7月6日～10日(5日間) ・京王プラザホテル/東京 	東京大学大学院 医学系研究科 教授 松島 綱 治	国内 600名 国外 300名 合計 900名	主催：日本炎症：再生医学会
<ul style="list-style-type: none"> ・第9回VIP/PACAP関連ペプチド国際シンポジウム ・平成21年10月5日～8日(4日間) ・鹿児島サンロイヤルホテル 	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 教授 宮里 篤 郎	国内 100名 国外 150名 合計 250名	主催：第9回VIP/PACAP関連ペプチド国際シンポジウム組織委員会

会合名、開催日、場所	申請書	参加人数	摘要
	所属機関・職名		
・第11回国際精子学シンポジウム ・平成22年6月24日～29日(6日間) ・沖縄コンベンションセンター(主会場)および万国津梁館(記念シンポジウム6月28日のみ)	東京家政学院大学 客員教授 東京大学 名誉教授 森澤正昭	国内 175名 国外 125名 合計 300名	主催：第11回国際精子学シンポジウム実行委員会
・第11回国際有機化学京都会議 ・平成21年11月9日～13日(5日間) ・リーガロイヤルホテル京都	京都大学大学院工学研究科教授 吉田潤一	国内 700名 国外 150名 合計 850名	主催：社団法人 近畿化学協会

[別添資料-4]

第25回(平成22年度)三共“フェローシップ”奨学研究助成採択者

4件(交付金:300万円/年,2年間)

(50音順、敬称略)

申請者	所属機関名	研究課題	研究に従事することを希望する機関及び研究指導者
桑原知樹	東京大学大学院医学系研究科 神経病理学分野・特任研究員	iPS細胞由来ドパミンニューロンを用いたパーキンソン病の神経障害機構に関する研究	Columbia University Medical Center (USA) Associate Professor Asa Abeliovich
島田和之	名古屋大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学・客員研究者	抗体療法を併用した化学療法の相乗的治療効果にかかわる分子基盤解析	University of Southampton School of Medicine (UK) Senior Lecturer (Ph.D.) Mark S. Cragg
西良太郎	神戸大学自然科学系 先端融合研究環バイオシグナル研究センター・助教	Identifying and characterizing new posttranslational modifications that control DNA double-strand break signaling or repair in mammalian cells.	Wellcome Trust/Cancer research UK Gurdon Institute, The Henry Wellcome Building of Cancer and Developmental Biology, University of Cambridge (UK) Full Professor Stephen P Jackson
堀晶子	独立行政法人 理化学研究所 吉田科学遺伝学研究室 研究生 横浜市立大学 共同研究員	神経細胞突起における微小管形成とミトコンドリア機能の解析	Cancer Research UK London Research Institute (UK) Head of Cell Regulation Laboratory 登田 隆

備考：内定者5名のうち、2名の辞退があり、補欠者1名を繰り上げ決定した。